

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

() 月 日 曜日

心にひびくたいこ岩の音、音、音

一湊小学校 五年 寺田 明兔

「やった。やった。やったぞ。」

私は、みんなでとびあがりました。そう、私
たちは、かんばってたいこ岩の頂上に登り切
りました。私は、たいこ岩に登ったことを忘
れられません。

私たち一湊小学校は、全員で白谷雲水峡に
行きました。

「それでは、今日はたいこ岩に登ります。」

先生の声が聞こえて、たいこ岩に登りはじめ
ました。最初に大きな岩を、上へ上へと登っ
ていきます。最初からものすごく楽しい気分
です。

その後は、ずっと木でできた階段が続きま
す。トントントントという足音。ザザーという
川の音やガワガワという木々の音がまざって、
まるでえんそう会をしているみたい。深く長
い年月が生み出した、心が清らかなる音が
響きます。

№. 1

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

けっこう登ったところで休けいです。水を
飲むと、水道の水よりずっとおいしく感じま
す。水を飲みながら道をよく見つめました。
すると、小さくてかわいいコケや葉っぱがた
くさんありました。横から見ると、もっこり
としたところが小さな山のようにです。私は思
いました、太こ岩に早く行ってみたいと。

休けいが終わって、また歩き始めました。
上に登るたびに、足がどんどんつかれてきま
した。足が鉄のように重いです。辻峠からが

大変でした。ロープがくくってある急な坂が
ありました。上から明るい光がさしこんで、
よし着いたと思いました。登ってみると、何
とそこには大きくて広い岩の上。これが太こ
岩と言うんだ。下をのぞきこむと、びっくり
するくらい高い。なかめは、木が黄緑色でう
すらと見ええました。前に行って下を見ると、
兄がふるえる音がカタカタとなったよう
です。

「おっ、たあ、やっと頂上に着いたね。」

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

「きりが出ていたけど、下が見えてきれいな友達と喜びました。登り切れて本当によかったです。」

私は頂上に着いたらしてみたいことがあるりました。岩なのにたたいたら、音がすると聞いていました。線のある近くをたたいてみると、ぼわあんと音がしました。私は楽しくなつて、何度もたたきました。

最後に、記念さつえいをしました。カシヤツ。シヤツターのいい音がします。

ちょうどお昼になったので、太き岩を後にしました。辻峠の近くで食べたお弁当は、がんにばつて登った後だからすごくおいしいです。たいこ岩には、たくさん音がりました。ガザーという川の音。ゴーという滝の音。トントトと歩く私たち人間の足音。小鳥の鳴き声。

今年も、白谷雲水峡に行きます。今度もまた、自然の音をたくさん聞いて、山登りました。いす。

No. 3

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)

